

## 松谷会長記者会見の概要

日 時：令和3年3月11日（木）15時00分～15時20分

場 所：（オンライン記者会見）

記者：

公募証券投信の純資産総額は145兆9,332億円であり、4ヵ月連続で過去最高を更新している。2019年9月から12月までの間、純資産総額は4ヵ月連続で増加しているが、それ以来1年ぶりではないかと思う。1年ぶりに4ヵ月連続で純資産総額が増加している要因について伺いたい。また、海外株式型の純資金流入額2,773億円は過去最大だが、前回の過去最大はいつか。

松谷会長：

約1年ぶりに4ヵ月連続で純資産総額が増加したのは、主にマーケットの上昇を受けて運用益が増えた要因が大きい。また、海外株式型の資金流入額は、2020年9月の2,559億円がこれまでの過去最高であり、今回はそれを更新した。

私見ではあるが、市況は上昇と下落を繰り返してはいるものの、比較的順調に推移している。コロナ禍により、将来に向けた備えが必要であるとの認識が深まったことで、これを機会に投資を始められる方も増えている。また、コロナショックで株価が一時的に大きく下落したが、これまで投信のパフォーマンスが良かったこともあり、投資家層が広がっていると思われる。また、在宅勤務が定着し、将来に備えるための投資について考える時間が増えていくことも背景にあるのではないかとみている。

記者：

主に海外株式に投資するタイプの投資信託に資金流入が続いている状況だと思うが、マーケットが一時的に下げた局面では積極的に押し目を拾う動きが出ている。今年に入っても資金流入が続いている背景には、海外株式型に投資家の資金が流入していることがあると考えてよいか。

松谷会長：

その認識でよろしいと思う。

記者：

松谷会長に伺いたい。最近、海外株式型や内外株式型に資金流入が続いているが、その要因は何か。一方、国内株式型に対する資金流入が少ない傾向が続いているが、なぜか。

松谷会長：

日本にお住まいで日本の企業から円で給与をもらっている方々にとっては、資産形成に

あたり、投資資金の一定割合を海外資産で保有することは、ポートフォリオの観点からも正しいと言えよう。また、若年層もグローバルな視点から海外資産に投資する傾向があるため、海外株式型の投資信託や海外株式への投資が進んでいるようである。しかし、運用資産全体で見れば、依然ホームカンントリーバイアスが強いのが現状であろう。

若年層が資産形成に向けてようやく動き始めたところではあるが、約 73 兆円の公募株式投資信託（除く ETF）の残高のうち、その半分以上は高齢者の方々が保有されている。高齢者の方々は資産活用の時期に差し掛かっているが、保有している投資信託は国内株式を組み入れているものが多いと思われ、国内株式の残高が減少する要因になろう。若年層は世界に目を向けて、海外の投資信託や株式に投資していくと思われるが、日本株式や日本株式を投資対象とする投資信託にも投資し、日本企業や日本経済の活性化を応援していただければと思う。

松谷会長：

投資信託協会の YouTube チャンネルで、新プロジェクト「ESG 投資 Invest for a Brighter Future!」の動画を公開しており、ぜひご視聴いただき、チャンネル登録をお願いしたい。運用会社の ESG に関する取組みについて、ESG 研究で著名な水口教授、金融庁幹部に続いて、経営トップの方々自らメッセージを発信していただいている。運用会社各社がどのような形で ESG に取り組んでいるのかをご自身で見極め、運用会社を選んで投資していただきたいと考えている。記者の皆さまにもご視聴いただき、各メディアでも取り上げていただければと思う。

以 上